

令和6年(2024年)2月19日
八王子市環境部環境政策課

「第3次八王子市環境基本計画 ～八王子市生物多様性地域戦略～(素案)」への
パブリックコメント手続きの結果公表について

このことについて、下記のとおり公表します。

記

1 パブリックコメント手続きの概要

- 【実施期間】令和5年(2023年)12月15日(金)～令和6年(2024年)1月15日(月)
- 【提出できる方】市内在住・在勤・在学の方、または市内に事務所・事業所を有する個人及び法人その他団体
- 【提出方法】直接、郵送、ファックス、またはメール
- 【閲覧場所】環境政策課、市政資料室、各事務所、各市民センター、各図書館、クールセンター八王子、八王子市環境学習室(エコひろば)、市HP

2 意見の提出状況

- 【意見の提出者数】5名
- 【意見の提出数】20件

3 意見種別

意見の分類	件数
計画全般に関するご意見	3件
策定手法に関するご意見	2件
第3章に関するご意見	1件
第4章に関するご意見	8件
第5章に関するご意見	1件
計画の推進に関するご意見	3件
その他のご意見	2件

【意見の概要】別紙「パブリックコメント手続きの結果」のとおり

※ 頂いた御意見は、趣旨を損なわないように留意しながら、一部要約しています。

別紙「パブリックコメント手続きの結果」

計画全般に関するご意見		市の考え
1	市の資源（ヒト、モノ、カネ、情報、時間）を有効に活用し、幅広い視点から検討を重ねられた、充実した素案であると評価する。	頂いたご意見を踏まえ、来年度以降の事業展開において市民の皆さまのご理解をいただきながら施策に取り組んでまいります。
2	第3次環境基本計画は今後10年の環境への取り組み、特にグローバルな地球温暖化や生物多様性が包含された計画のため、世界動向、国、東京都、八王子市の繋がりをかなり詳しく説明し、コラムや資料編での解説に注力頂いている。これらの大きな方向付けを意識しながら具体的な活動に繋がるよう活かして欲しい。	
3	莫大なレポートのような内容の計画は、一般市民は見ないと思われるため、もっとシンプルにする必要がある。	ご意見のとおり、市民の皆さまにご覧いただくことは重要だと考えております。なお、本計画は市民の皆さまの手に取っていただけるよう、概要版を作成いたします。

策定手法に関するご意見		市の考え
4	見識者からは章立てなどの全体や推進プロセスについて、特別な研究をしている見識者、同好会、学者などからは生物の動向など情報収集・現状把握を行った方が良いと思う。	策定に当たっては、学識経験者や事業者、市民などにより構成される環境審議会にて議論を重ねてまいりました。 また、生物の動向につきましては、「新八王子市史 自然編」を活用するほか、専門家へのヒアリングにより情報を収集してまいりました。しかしながら、生物に関する情報の不足は認識しており、基本施策1-1に「生きものや生態系に関する情報の収集・活用」を記載しております。
5	環境市民会議など日々、長年現場で活動している市民の意見を聞いた方が良い。	策定に当たっては、環境市民会議の代表者や公募市民などで構成される環境推進会議にてご意見を伺っております。

第3章に関するご意見		市の考え
6	SDGsに対して本計画が「特に深いかわりを持つ項目」として17の目標から選択されているが、本計画とSDGsとの関係をさらに詳しく分かり易く関連させるには169のターゲットから選択した方が良い。	ご意見のとおり169のターゲットをお示しすることで分かり易く関連できることは認識しておりますが、本計画では幅広いターゲットが関連し、全てを掲載することが難しいため、深い関わりをもつ目標のみを掲載しております。

第4章に関するご意見		市の考え
7	施策の展開では、①指標、②現状値、③目標値が示されている。③が示されていることは高く評価されるが、③が妥当であることの合理的説明が必要。③の妥当性の確認があつてこそ、第3次計画の結果の評価・考察が可能となる。	ご意見のとおり、目標値は施策の効果を客観的に把握する観点から重要と考えております。本計画では、各施策により実現すべき状態を数値として設定しました。なお、それぞれの指標の根拠については整理しており、設定に当たっては環境審議会にて議論を行ってまいりました。
8	個別施策の具体例が具体的でない部分が多い。超概算（予算）を想起しうる記述や思考レベルで管理項目を示唆できるような具体例が望まれる。	本計画は、本市の環境行政の方向性を示すものであり、具体的な取組については下位計画に記載するとともに、関連所管と十分に連携を図りながら施策を推進してまいります。
9	市の緑被率はあまり変化が無いが、昆虫や野草などの小さな生き物は急速に減少している。みどりが手入れされず、日陰がばかりになっている。多様性には適度な光と陰のバランスがとれた環境作りが急務。	ご意見のとおり、生物多様性保全に向けては、みどりの管理が不可欠だと認識しております。頂いたご意見は、「施策の方針1-2」の取組の参考とさせていただきます。
10	カーボンニュートラル関連でCO2削減を述べるに当たっては、カーボンフットプリントの視点で本来は論理展	本市では、部門別の二酸化炭素排出量を

	開すべきかと思う。少なくとも、カーボンフットプリントをコラムで解説しておくべき。	把握することにより、効率的な二酸化炭素排出量削減を進めております。ご意見のとおり、カーボンフットプリントの考え方も重要であるためコラムとして追加いたします。
1 1	木質バイオマスの導入促進について、木質ペレット・ストーブが、多くの家庭での暖房熱源として使われるようになると、排ガス装置をつけないと窒素や硫黄の酸化物を大気中に放出して濃度を高めることになる。温暖化防止のための脱化石燃料の方策として木質バイオマスの導入促進を進めるにあたっては、このリスクについて慎重に考慮する必要がある。	ご意見のとおり、温暖化対策と大気汚染対策は両立していくべき施策と認識しております。頂いたご意見は「施策の方針2-1」の取組の参考とさせていただきます。
1 2	水素エネルギーの活用について、化石燃料を改質して生成する水素は論外として、自然エネルギーにより発電した電力で生成する水素もエネルギー効率は電池への蓄電と比べると大きく劣り、輸送によるエネルギー消費や保安上のリスクを考えると、実用化は難しいと予想される。自然エネルギーによる発電の需給の調整には効率のよい蓄電池を組み入れたシステムを選択する施策を進めるべきである。	国や東京都では水素に関する施策を推進するなど、水素を取り巻く動向は大きく変化していると考えております。一方、水素利用に関する課題も認識しているため、国や都の動向を注視しつつ、中長期的な視点をもって検討を続けてまいります。
1 3	環境省による「生活環境の保全に関する環境基準（河川）」にはBODのほかに pH, SS, DO, 大腸菌数の4項目があり、市の測定結果をみると、大腸菌数の多いケースが目立つ。河川環境の改善のためには、公共下水道への接続、浄化槽の維持管理を進めるとしており、その効果を測るためには、指標をBODから大腸菌数に変更するのが妥当である。	ご指摘のとおり、河川の大腸菌数は環境基準未達成となる場合があります。一方、大腸菌数は、動物のフンなどの影響により数値が変化することがあるため、これらの影響を受けにくいBODを採用いたしました。
1 4	国や都指定の里山、大手企業が保全活動している里山、環境ネットワークで登録されている団体の活動エリアや場所を地図上にプロットして欲しい。	活動団体やエリアは、新規活動団体の発足などにより更新頻度が高いため、計画冊子への記載は難しいと考えております。しかしながら、頂いたご意見は、活動団体の周知啓発や連携促進の観点から有

		効であると考えられるため、今後の取組の参考とさせていただきます。
--	--	----------------------------------

第5章に関するご意見		市の考え
15	中央地区環境市民会議の活動として「魚の放流」が記載されているが、養殖した他水系のウグイを放流しており、生物多様性の保全に配慮する日本魚類学会の放流のガイドラインには従っていないようである。生物多様性地域戦略をうたう環境基本計画のなかにこれを含めるのは不適切ではないか。	子どもが自然とふれあう機会を創出することは重要だと考えておりますが、ご意見のとおり課題も認識していることから、今後の取組の参考とさせていただきます。

計画の推進に関するご意見		市の考え
16	生物多様性の4つの危機に対応するため、日当たりの悪化となる高いビルの乱立防止や二次林・里山の管理、ナラ枯れ対策など、国や都や市の行政には予算を余すことなく使い、結果を出してほしい。	頂いたご意見を参考に、より効率的・効果的な手法を検討しながら施策を推進してまいります。
17	環境部がリーダーとなって、課題別に市全体で取り組まなければ本来の成果は出ない。又、予算づけも必要である。	
18	地権者など市民の理解・協力が必要。ボランティア活動をしている人、愛好家（写真、コレクター、研究者など）など市民力をもっと活用して欲しい。	ご意見のとおり、環境保全のためには多くの市民の皆さまのご協力が欠かせないと考えており、市民の皆さまとの協働により環境施策を推進してまいります。

その他のご意見		市の考え
19	地形図の中の文字は、位置をずらすか、白抜きにするなど判別しやすいように善処願いたい。	頂いたご意見を参考に、見やすい計画づくりを進めて参ります。
20	「生物の多様化」に対するテレビ番組や著書などは沢山あるため、市の職員は見るなど関心を持って欲しい。	環境施策を推進するうえで、様々な部署の職員が環境について理解を深めることが重要と考えております。現在、環境に対する様々な研修を行っており、今後も頂いたご意見を参考に職員の意識啓発を続けてまいります。